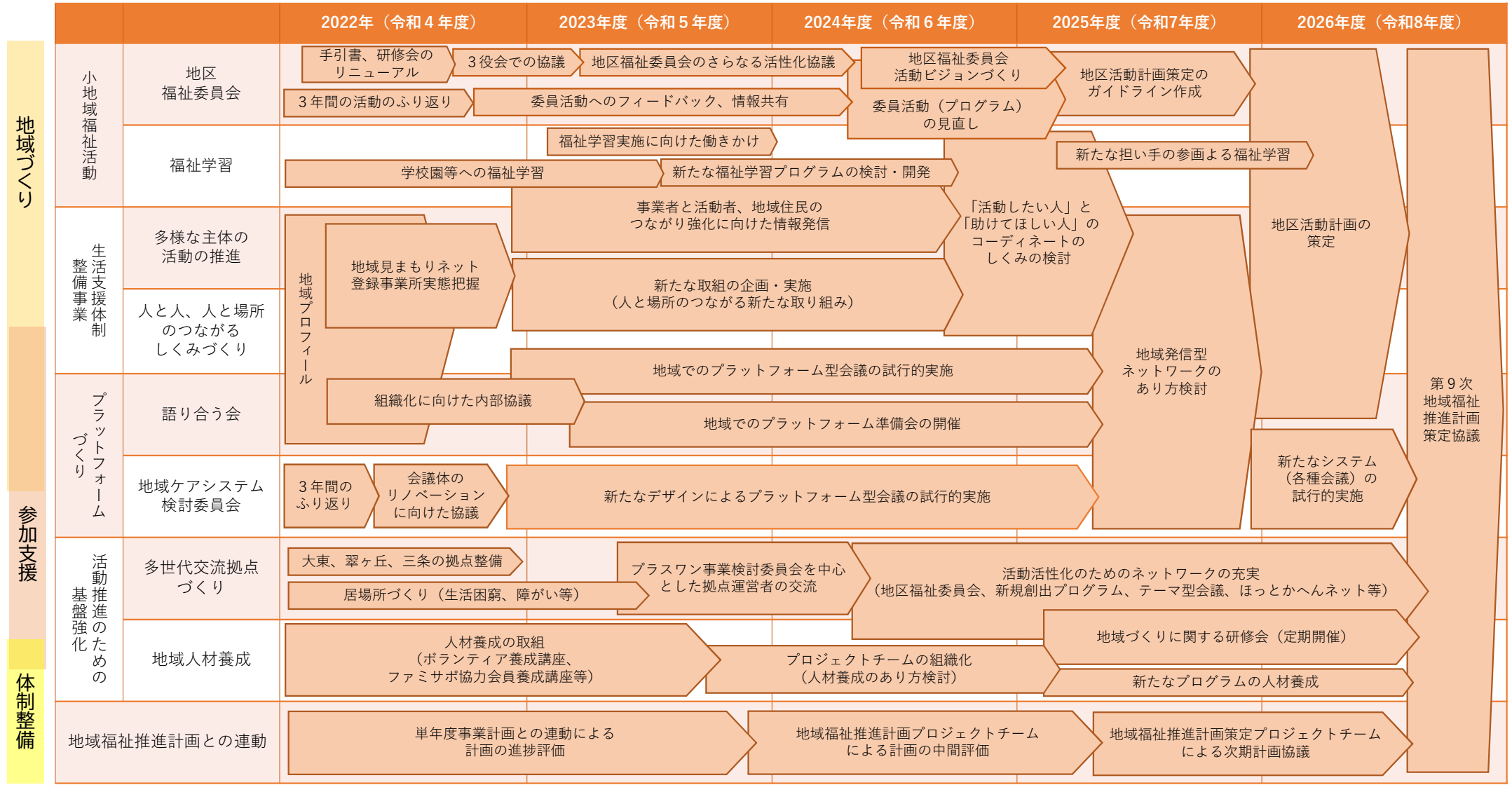


地域づくり実践の中長期展開ビジョン(中長期全体工程表)案



小地域福祉活動(地区福祉委員会、福祉学習)

1 現状と見えてきた課題—地域プロフィールによる分析結果—

(1) 地区福祉委員会

- 福祉推進委員の欠員率が高止まりの傾向にあり、担い手が減少傾向にある。
- 「やりたい活動」が、コロナ禍や活動内容(プログラム)の影響を受けて十分に実施できず、地区福祉委員会のメンバーのモチベーションが低下している。
- 多くの住民に喜ばれ、感謝されているにもかかわらず、活動の担い手である地区福祉委員会のメンバーが実感する機会が少ない。
- 活動の意義や意味を再確認し、より有意義な活動を展開していくためにも、委員会でのより活発な議論が必要。



(2) 福祉学習

- 学校からの依頼に基づき実施しているため、全校実施に至っておらず、全校実施に向けた啓発が必要。
- ボランティアや当事者の協力で行っているが、学校近隣の住民のかかわりが少ない一方、多くの地域住民が子どもへのかかわりを希望している。より多くの地域住民が参画できるような工夫が必要。
- メニューが固定化しているため、地域住民を対象とした多様なニーズに応じられるメニューづくりが必要。

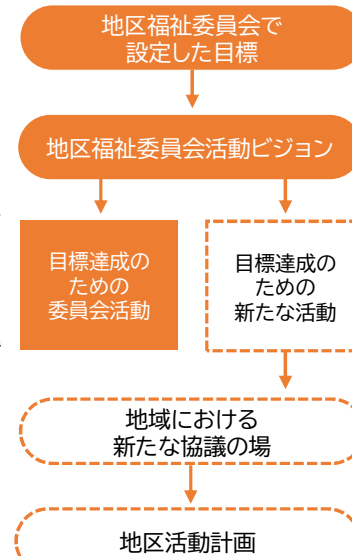
2 今後の実践(取組)

(1) 地区福祉委員会

- 3役会設置と社協地区担当ワーカーと地域支え合い推進員の参画による地区福祉委員会のデザインや運営に関する継続的協議。
- 委員活動の意義や意味、住民の感謝の声等を、社協地区担当ワーカーと地域支え合い推進員が地区福祉委員会メンバーに積極的にフィードバック。
- 委員活動を見直しながら(例:対象者)、「目標」を達成するための「活動」として再整理。それらを「地区福祉委員会活動ビジョン」として言語化。
- 地区福祉委員会のみでは目標を達成できないと考えた場合には、ネットワークを拡大し、新たな協議の場(例:語り合う会)での取組へと展開。
- 地区活動計画策定のガイドラインを作成し、地区福祉委員会活動ビジョンをブラッシュアップしながら地区活動計画策定へ展開。

(2) 福祉学習

- 未実施の学校等へ実施に向けた働きかけや意見交換会の実施。
- 従来のプログラムをもとに、地域住民や全世代に向けた新たな福祉学習プログラムの検討・開発。
- 地域住民やボランティアな活動者等による、福祉学習の担い手(学習指導者)のコーディネートやしくみの検討と、新たな担い手による福祉学習の実施。



地区活動計画策定までのプロセスイメージ

		2022年 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	2024年度 (令和6年度)	2025年度 (令和7年度)	2026年度 (令和8年度)
小地域福祉活動	地区福祉委員会	手引書、研修会のリニューアル 3年間の活動のふり返り	3役会での協議 委員活動へのフィードバック、情報共有	地区福祉委員会のさらなる活性化協議	地区福祉委員会活動ビジョンづくり 委員活動(プログラム)の見直し	地区活動計画策定のガイドライン作成 地区活動計画の策定
	福祉学習		福祉学習実施に向けた働きかけ		「活動したい人」と「助けてほしい人」のコーディネートのしくみの検討	新たな担い手の参画による福祉学習
		学校園等への福祉学習		新たな福祉学習プログラムの検討・開発		第9次地域福祉推進計画策定協議

生活支援体制整備事業(多様な主体の活動の推進、人と人、人と場所のつながるしくみづくり)

1 現状と見えてきた課題—地域プロフィールによる分析結果—

(1) 多様な主体の活動の推進

- 地域支え合い推進員による地域見まもりネットワーク登録事業所の実態把握(フィールドワーク)により、多くの事業所が地域においてさまざまな見まもり活動や福祉活動を実施していたことを再確認。
- 多くの事業所が社会貢献活動に高い関心を持っているが、活動に至るきっかけが少なく、さまざまな情報発信やコーディネートによって、より活性化が見込まれる。(例:店舗の空きスペースの活用)
- 事業所同士、事業所と地域の福祉活動者とのネットワークを強化し、さらなる福祉活動の活性化、新たな活動の創出につなげることが課題。



(2) 人と人、人と場所のつながるしくみづくり

- 子ども食堂(地域食堂)をはじめとして、住民やボランティアな活動者による自主的・主体的な活動が活発化しつつある。しかし、活動と活動、新たな活動希望者と活動団体などの結びつきが十分でなく、新たなつながりによって活動のさらなる活性化が期待できる。
- 新たな活動者を呼び込むために、地域住民が興味・関心のあるテーマの活動の創出にむけたしかけが必要。

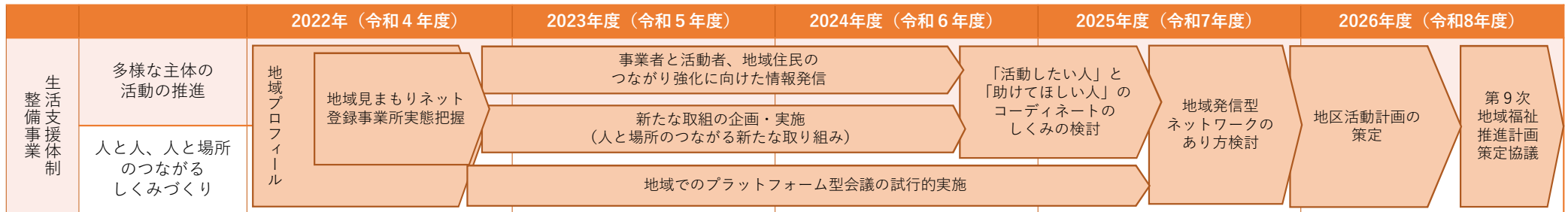
2 今後の実践(取組)

(1) 多様な主体の活動の推進

- 地域見まもりネットワーク登録事業所の実態把握(フィールドワーク)によって得た情報の集約と地域住民への発信するツールを開発して発行する。
- 地域見まもりネットワーク登録事業所間の相互連携強化、啓発を目的とした情報発信及びネットワークづくりの検討。
- 地域支え合い推進員や社協地区担当ワーカーがフィールドワークから得た情報をもとに、新たな活動の創出に向けた試行的取組の実施。
- 高齢者に限定せず、地域における新たな活動の創出に向けた市民活動団体等とのネットワーク強化に向けた、多様な協議の場への参画。
- 「興味・関心からはじまる地域づくり」に向けた、地域におけるプラットフォーム型会議の試行的実施。
- 活動者同士の活動のコラボレーションや相互支援などによる住民主体活動のさらなる活性化に向けた協議の場づくり。

(2) 人と人、人と場所のつながるしくみづくり

- 「フードドライブによる食品提供会と地域活動団体交流会」のような、活動者同士の情報交換や交流の場づくり。
- 地域見まもりネットワーク登録事業者と活動者、地域住民等の協働による新たな取組の企画・実施(人と場所のつながる新たな取組)。
- 「活動したい人」と「助けてほしい人」のコーディネートのしくみの検討。



プラットフォームづくり(語り合う会、地域ケアシステム検討委員会)

1 現状と見てきた課題—地域プロフィールによる分析結果—

(1) 「地域課題解決から」、「興味・関心から」はじまるまちづくりへの転換

- 地域における福祉活動の担い手の高齢化や不足などの問題が散見される一方、子ども食堂やスマホカフェに代表されるいわゆる「テーマ型」の活動は根強く展開されている。
- ヤングケアラーやダブルケアなどへの関心の高まりとともに、「子ども・子育て支援(働く母親、0～2歳の未就園児の母親への支援、不登校の親への支援等)」への関心が地域で高まっていることがわかった。
- 地域住民の興味・関心を察知し、より直接的に活動へ結びつけられるような協議の場づくりが課題。「楽しい」「うれしい」「おいしい」「かっこいい」「おしゃれ」といったキーワードをフックとしたまちづくりを中核にした新たな活動者を呼び込むしかけをつくり、さまざまな人の社会参加を促進することが課題。



(2) 活動やプログラムをデザインするメンバーの選出

- 地域住民の多様な興味・関心に目を向けながら、さらなる幅広い層の関心や参画を呼び込むような会議やプログラムのデザイン、既存の取組や慣習に縛られず柔軟な発想を生み出す協議体を組織することが課題。
- 新たな活動の創出やそのための新たな協議体の組織化ではなく、既存の活動の“あいのり”によって活動を活性化させていくスタイルの導入が課題。

2 今後の実践(取組)

(1) プラットフォーム型会議の試行的実施(地域、全市)

- 全市では、令和4年度の地域ケアシステム検討委員会で声の上昇した「子ども・子育て支援」について、令和5年度に新たなメンバーによるプログラムのデザインから協議を開始する。
- 地域支え合い推進員がフィールドワークをもとに収集した多様な主体が有する資源(例:空きスペース、物的・人的資源)や既存の活動を連結させ、新たな取組を創出する。
- 地区福祉委員会や自治会などの既存の地縁型組織との連携や新たな協議の場としてプラットフォーム型会議を試行的実施する。(令和4年度は、「社協だよりの配布」、郵便局の空きスペースを活用した高齢者の作品展「(仮称)マチカド手芸部」の企画実施に着手)
- 並行して、地域支え合い推進員や社協地区担当ワーカーが見つめてきた地域の課題解決に対し、高い関心を持つ人たちによる地域でのプラットフォーム型会議の準備会を立ち上げる。

(2) 地域発信型ネットワークのあり方検討

- 地区福祉委員会同様に、地域ケアシステム検討委員会の会議デザインを地域支え合い推進員と協働し、今後の地域発信型システムのあり方を検討する。
- 新たなしくみでの試行的実施とシステム化をめざす。

